

2 育てたい生徒像を思い描く

目標を明確にする

毎日教壇に立ち、より良い授業について考える日々、皆さんは生徒をどのように育てようと考えていますか？

年度当初に、学校の教育目標や教科の目標、個人の目標について考え、その目標の実現に向けて努力していることでしょう。

私たちは常に、「育てたい生徒像」という目標を明確に持って授業に臨む必要があります。 → 2章-1、2

☆学校の教育目標とは

学校教育目標は、学校の特色、課程の特徴といった学校の果たすべきミッションに関わるものから、地域との連携等、学校の周辺環境に関わるものまで、広範囲にわたり、練り上げられています。学校の使命は急に変化することがないので、比較的長期的な見通しを立て、複数年同じ目標を設定することが多いです。

学校の教育目標を踏まえること

「皆さんの勤務する学校の教育目標は何ですか？」

教師一人ひとりが、個々のスタイルで授業を行うことは、高等学校における魅力の一つであり、多様な価値観によって生徒の学びは幅の広いものとなります。しかし、学校全体という視野で見ることによって教科の枠を越えた共通の課題が見えてきます。

学校の教育目標は、学校の大きな道標であり、その目標の実現に向けて、全ての教師が足並みを揃えることが重要です。

明確な目標の共有

同僚と目標を共有することで、互いの理解を深め合うことができます。するとともに、協力して課題にあたることができます。

また、常に生徒に対して明確に目標を提示することで、ぶれのない高い教育効果を生み出すことができます。

個別支援
が必要な
生徒への
対応を考
えよう

自立した人間の育成

一人ひとり個性が違う生徒について「育てたい生徒像」は本来一人ひとり異なっているべきものなのかもしれません。

しかし、それぞれの良いところを伸ばし、自己肯定感を育み、胸を張って歩いていける自立した人間に育てて欲しいという思いは共通の願いではないでしょうか。



教科で育てたい生徒像

「どのように授業をすればよいか」という授業技術について考える前に、「どのような生徒を育てたいか」ということについて、考えましょう。

「育てたい生徒像」がはっきりしていると、授業の組立てが明快となり、生徒に伝えたいことがはっきりする分かりやすい授業となります。生徒も自己評価しやすく、学習意欲が向上します。



「作品づくりだけが目標？」

美術・工芸の授業では作品を制作することだけが目標になっていませんか？

例えば、陶芸の授業を例にすると、「陶芸をさせよう」ではなく、「陶芸」という学習活動を通して身に付けさせたい力を育むことを目標とします。例えば、「子どもが使いやすい器」といった題材により目的や機能などを考えた表現力の育成を目標に設定したり、「自分の気持ちを表した造形(抽象彫刻)」といった題材により感じ取ったことや考えたことを基にした表現力の育成を目標に設定したりすることなどが考えられます。